



日本学術会議主催学術フォーラム

# われわれはどこに住めばよいのか？

## ～地図を作り、読み、災害から身を守る～

平成 27 年 6 月 20 日(土) 13 時～17 時 00 分

主催 日本学術会議  
後援 日本地球惑星科学連合、地理学連携機構  
会場 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木 7-22-34、<http://www.scj.go.jp/ja/other/info.html>)  
申込み 日本学術会議ウェブサイト (<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>) か Fax: 03-3403-1260  
にてお申込み下さい。参加費無料。定員 300 人。

東日本大震災発災から 4 年余り過ぎましたが、大きな痛みは続き、復興は未だ道半ばです。現代の科学技術でこのような大災害をなくすことはできません。しかし、災害についてよく知ることにより、被害を軽減することはできます。地形図や地質図、ハザードマップなどにはそのための情報が詰まっています。どんな地図情報があり、それからどう災害リスクを読み取ればよいか、また人々が自ら地図を作ったり活用したりして災害から身を守る社会はどうしたら実現できるかなどを、地球人間圏科学的視点から考えます。

### プログラム

【総合司会】 鬼頭昭雄 (筑波大学生命環境系生幹研究員、日本学術会議連携会員)

13:00-13:10 開会の挨拶、趣旨説明

荒 氷見山幸夫 (北海道教育大学名誉教授、日本学術会議第三部会員)

13:10-13:30 「堆積物が教えてくれる大津波の痕跡」

佐竹 健治 (東京大学地震研究所教授、日本学術会議連携会員)

13:30-13:50 「火山と共存する日本人が向き合う災害」

中田 節也 (東京大学地震研究所教授、日本学術会議連携会員)

13:50-14:10 「地域の災害特性を地理院地図で理解する」

宇根 寛 (国土交通省国土地理院企画部地理空間情報活用推進分析官)

14:10-14:30 「災害リスク管理のための地質地盤情報の共有化ー忘れられた国土情報」

佃 榮吉 (独立行政法人産業技術総合研究所理事、日本学術会議連携会員)

14:30-14:40 休憩

14:40-15:00 「分かりやすいハザードマップを作るための要件とは？」

森田 喬 (法政大学デザイン工学部教授、日本学術会議連携会員)

15:00-15:20 「地理情報と統計解析を用いた土砂災害の発生可能性の評価」

小口 高 (東京大学空間情報科学研究センター教授、日本学術会議連携会員)

15:20-15:40 「家や工場を建てる際には水害地形図で事前の検討を」

春山 成子 (三重大学大学院生物資源学研究科教授、日本学術会議連携会員)

15:40-16:00 「防災・減災につなげるハザードマップの活かし方ー地理学の視点ー」

鈴木 康弘 (名古屋大学減災連携研究センター教授、日本学術会議連携会員)

16:00-16:20 「ハザードマップの展開：最新情報と普及の実際」

寶 馨 (京都大学防災研究所教授、日本学術会議連携会員)

16:20-16:30 休憩

16:30-16:55 ディスカッション

【司会】 村山祐司 (筑波大学生命環境系教授、日本学術会議連携会員)

16:55-17:00 閉会の挨拶

奥村 晃史 (広島大学大学院文学研究科教授、日本学術会議連携会員)

申込、参加に関する問い合わせ先：日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当  
〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34 電話：03-3403-6295 E-mail [p228@scj.go.jp](mailto:p228@scj.go.jp)

(背景は国土地理院 2 万  
5 千分 1 土地利用図)